

令和5年度 調布市立第八中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
○自ら考え行動する生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○心身ともにたくましい生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
『心理的安全性の高いさわやかな学校を目指して“自分らしく飾らずに”』をスローガンとし、次の生徒像を設定する。 ○「道徳性」の育成・・・道徳教育や人権教育等を重視し、思いやりのある心豊かな生徒を育成する。 ○「問題発見・解決能力」の育成・・・主体的、対話的で深い学びを通して、自ら考え行動できる生徒を育成する。 ○「健康・体力づくりに励む力」の育成・・・学校行事、部活動、体験学習等を通して、心身ともにたくましい生徒を育成する。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>○現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で素朴さを感じさせる生徒が多く、生活面での乱れはなく、学校生活は落ち着いている。学区外からの生徒が多く、全体の4割近くを占めている。また、通級利用生徒が全体の1割弱となっている。 ・保護者は学校に対して協力的で、PTA活動も活発である。また、地域学校協働本部の活動がコーディネーターを中心に活発に行われており、土曜学習部では、地域ボランティアが多数指導に当たっている。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくり(心理的安全性の高い居場所づくり、授業力の向上、学力の3つの柱の育成、配慮を要する生徒への個別支援) ・インクルーシブ教育の推進(R2・3年度研究推進校の実績を踏まえた取組、校内通級教室拠点校としての取組、インクルーシブ授業に関する指導技術の向上、ICT機器の効果的活用) ・地域と連携した学校づくり(地域学校協働本部の活動の継続、土曜学習部の運営、各種検定の実施)

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<p>言語知識の定着を図り、相手の理解を考慮した表現力を身につけさせ、主体的な態度での意見交流と、他者の考えを取り入れる姿勢を育む。</p> <p>具体例と根拠を明確に文章化したり、説明したりする活動を通し、思考力や表現力、言語能力を伸ばさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストなどを随時行い、基礎知識の定着を図る。 ・発問に対する意見や考えを他者と共有をして、再構成する手段を身につけさせる。 ・小集団での意見交流と発表機会を多く設定し、聞き取る姿勢の育成と文章化して伝える過程を大切に、主体的な表現活動につなげる。 ・効果的な指導方法としてICT機器やワークシートを利用する。 ・教科書の既習範囲の比較、様々な文章形態を扱い、書き手の意図、表現方法を理解して文章作成に取り入れさせる。
社会	<p>よりよい社会の形成に向けた社会的な基礎・基本となる知識技能を育み、グローバル化する国際社会で生きていく主体的な態度を養う。また国際社会の抱える課題や様々な社会的な事象について社会的な見方・考え方を働かせ、考察し、説明する活動を通し、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会的な事象や史資料の読解、考察の活動や、生徒同士の教え合い、学び合いの活動を充実させることで、社会科の基礎・基本となる知識技能を定着させる。 ・ICT機器を活用して生徒の主体性を高める工夫や対話的活動を円滑に行うことで生徒の社会的な見方・考え方を養う(一人一台端末を活用した対話的活動、パワーポイントを用いた解説等) ・単元での学びの連続性を意識させる指導を行うとともに、単元を貫く問いを設定して、様々な社会的な事象や国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察する機会を設け、表現する活動を行う。
数学	<p>数学的に考えることのよさ(処理、実用性など)を実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する、または活用しようとする主体的な態度を育成する。その上で、日常の事象や数学の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察し、説明する活動を通し、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に利用する。(ミライシードでの演習、パワーポイントでの解説等) ・授業での課題や発問を精査し、課題解決までの見通しがもてる授業を行う。 ・新たな課題の発見を促すための、授業の振り返りを充実させる。(振り返りシートの活用、発表等) ・実験などを通して、身の回りの事象を数学的にとらえる力を身に付けさせる。 ・授業の中で対話をする機会を設定し、授業内容の定着と数学的な表現力の向上を図る。

<p>理科</p>	<p>目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育成する。また、主体的・対話的で深い学びを目標に、予習→授業→復習という流れを身につけさせ、課題解決能力を育成する。得られた情報をまとめ、自分の考えを表現する力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやレポートなどで考察やまとめを言語化するとともに、口頭や文章等で発表する機会を多く設ける。 ・3年間の理科の学習のつながりや他教科との関連、学習内容が実生活で生かされていることなどと関連させながら考えさせ、理解を深める。 ・ICT機器を活用し、視覚聴覚的にもイメージしやすい授業を行い、意欲関心を高める。
<p>音楽</p>	<p>心理的安全性に配慮し、話し合いやグループ活動を取り入れ、主体的な態度を育成する。音楽がもたらすイメージと音楽を形づくっている要素の関わりを説明する活動を通し、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的な視点で生徒が楽曲を学習できるよう、発問や授業展開を工夫する。 ・振り返りを提出することで、できたこと・できなかったこと・できるようにするための方法を考え、粘り強く学習に取り組む。
<p>美術</p>	<p>自ら考え行動することのできる生徒の育成を目指し、自分の興味・関心・感情・思いを形にすることのできる授業を作っていく。表現や、デザインの身近さを生徒に伝え、ものづくりの考え方や計画的に作業を進める手段を学習させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTやプリントを用い、認知特性を踏まえ1つの授業の中で「見る・聞く・読む」のどの方法からでも授業内容が習得できる工夫を行う。 ・生徒の身の回りのデザインや、身近な工夫の中から教材を選出し、気づきや発見を促す。 ・自らの考えや発想を具体的な形にし、表現の方法を自ら考えるワークシートの活用。 ・完成した作品について、どういった意図や工夫を用いたのかを自ら説明させる活動を行う。
<p>保健体育</p>	<p>基礎的な技能の定着を図ること、授業の目的を毎時間ごとに説明し、苦手な生徒も安心して授業に取り組める環境をつくる。生徒が主体的に活動し、仲間との学び合いの中で、生徒相互に意見交換する活動を通して、協働的な学びを充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用により、自他の動きの分析をしたり、授業で説明したりする活動を取り入れる。 ・種目ごとにペアワークやグループワークを設定して、生徒同士で質問やアドバイスをしあうことで、生徒全員の意欲や技能の向上を目指す。
<p>技術・家庭</p>	<p><技術> 心理的安全性が高い授業を進めるため、対話的で深い学びや協働的活動を取り入れた実習を展開し、主体的課題解決力の伸長を図る。創造的行動力を育む観点から、生徒の個性を引き出し、材料と加工や生物育成に取り組みさせる。</p> <p><家庭> 生活の中で、自分の健康を意識し、知識や技能を身に付けながら、共生社会や持続可能な社会のために、生徒が、主体的に何ができるか考え、実践できる力を身につけさせる。</p>	<p><技術> ・生徒端末を活用し、授業内でプログラミング等の学習を協働的、学びあいを導入し円滑に行えるようにする。</p> <p><家庭> ・ユニバーサルデザインを意識し、見やすく、わかりやすい提示をする。(毎時間の学習目標や図、作品段階見本等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループ活動を多く取り入れ、意見交換をしながら多様な考えがあることを学ぶ。実習では互いに教え合い、協働する姿勢を養う。 ・作品作りでは、見通しをもって作業に取り組めるように、ICT機器等を活用し、1時間の行程がわかるように提示する。
<p>外国語 (英語)</p>	<p>心理的安全性に満ちた授業を推進し、間違いを恐れず積極的に英語を用いて他者とコミュニケーションを図ろうとする主体的な態度を養う。</p> <p>ペアやグループでの話し合い活動や協働学習を通して、外国の文化をはじめ、さまざまな情報や考えなどを英語で理解するとともに、自分の考え・意見などを英語で伝える基礎力の定着をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に利用する。(パワーポイントでの進出文法の導入や練習等・ミライシード等を活用しての課題提出・発表活動・問題演習等) ・楽しみながら協力して学習できるように、様々な形態の活動を授業に取り入れる。 ・多様な形態のペアワークやグループ活動を取り入れ、協働して学習する場面を多く取り入れる。
<p>道徳科</p>	<p>思いやりがあり、心豊かな生徒を育成する。道徳的活動を通して、主体的に自己を見つめる態度を養う。また、自分の考えや他者の考えを、話し合いやグループ活動を通じて多面的・多角的に考え、よりよく生きるための道徳性を養う。自分の考えやグループの考えを発表する活動を通して、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の視点で、心理的安全性に満ちた授業を行う。(目標の表記、授業の流れの説明、話し合い活動の工夫、ICT活用方法の工夫等) ・多種・多様な教材を通して、人としての生き方を深く考えさせる。 ・小グループでの話し合いを通して意見を出しやすい環境を作り、自分の意見だけでなく他者の意見を共有できるようにする。 ・毎時間、また学期ごとの振り返りシートの記入により、自らの成長を実感し意欲の向上につなげる。